

平成29年度 市立大森病院 方針書

市立大森病院 事務局長 村上伸夫

1. 市立大森病院の使命（役割）

○保健・医療・福祉・介護が一体となった「地域包括医療・ケア」を推進し、地域住民の健康増進、保健衛生並びに高齢者福祉に関する医療サービスを提供していく。
○安全で安心な医療の提供と健全で安定した経営の確保と共に、地域に信頼され、魅力ある病院づくりを推進する。

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

○経営健全化への取り組み（収益確保と経費削減）
○医師、看護師等の負担軽減と質の向上→人材の確保
○病院機能評価（再受審）の中間検証
○感染対策の更なる徹底と強化の継続

3. 平成29年度の『スローガン』

「地域密着病院として地域から選ばれる病院づくり！」

4. 年度目標となる方針（目標）

○地域包括ケアの拠点として地域の医療や介護を支えるハブ機能を有する病院
○経営健全化への早急（具体的）な取り組み
○`新公立病院改革プラン`の対応と実践
○2018年度診療報酬・介護報酬同時改定への対応

5. 重点取組項目

(1)	項目	健全経営に向けた取組み(2018年度医療・介護報酬同時改定への対策)
	取組内容	○病院機能評価再受審(3rdG:Ver1.1)結果を受けての中間検証 ○具体的コスト削減と原価計算の実践 ○組織強化への取り組み→人材開発の強化・育成(認定・特定看護師、医療経営士等) ○2018年度診療報酬・介護報酬同時改定への対応
(2)	項目	地域密着型病院としての取り組み
	取組内容	○地域包括医療・ケアの更なる充実 ○地域(職員)にとって魅力のある病院づくり(地域住民との協働) ○在宅看取り、グリーンケア・レスパイトケアの更なる推進 ○認知症への対応
(3)	項目	「地域医療構想」を踏まえた`新公立病院改革プラン`の実践
	取組内容	○地域医療構想を踏まえた対応と実践 1. 2025年を見据えた医療需要への対応→市立大森病院の役割 2. 在宅医療の機能強化と推進 3. 病床機能見直し(再編)に当たっての地域の理解への取り組み

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

◇診療報酬介護報酬同時改定、医療需要と役割、地域医療構想等⇒①病院関係機関の研修会、会報及び機関紙から同時改定に関する情報を収集②経営改善検討委員会の開催③病院機能評価の中間検証に着手（検討会開催2回）

◇組織強化、人材育成確保等⇒①総合診療専門医研修施設の認定②認定看護師（1名）の認定更新（5年毎）③看護師奨学生決定（1名）④学会、院外研修派遣と情報共有研修会開催

◇地域包括ケア拠点等⇒①地域包括医療ケア認定更新（5年毎）②地域包括医療ケア、在宅医療の機能強化と充実のため、「地域医療介護連携システム」の構築に着手③地域包括ケア懇談会の開催④ナイトスクール、糖尿病教室等の開催

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

◇入院患者数の減少による収入減、固定経費の削減が課題

- ・医療、介護報酬同時改定を見据えた病院機能及び基準の見直し
- ・経営改善検討委員会での検討、方針決定
- ・地域医療介護連携システムの構築と的確な運用
- ・魅力ある病院づくりの取り組み「病院祭」（10/28）の開催
- ・院内保育所運營業務委託の契約更新

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

○「地域包括ケアの拠点として地域の医療や介護を支えるハブ機能を有する病院をめざす」点では、医療の質を高めるための病院機能評価の中間検証を行ったほか、地域医療介護連携システムの運用開始に向けた各関係機関との協議や操作研修を実施した。また、地域包括医療ケアの認定更新を行うとともに、地域包括ケア懇談会やナイトスクール、糖尿病教室等を開催し、拠点としての連携強化やハブ機能の向上を図った。

○「新公立病院改革プラン」の対応と実践」及び「経営健全化への取組み」では、経営改善検討委員会を開催し当病院の役割を再確認したほか、将来に向けた施設基準の検討等を行った。また、具体的な経営改善の取り組みとしては、電力契約の見直しやインバータを導入することとしたほか、経費削減のため院内保育所を直営化することとし、それぞれ次年度実施する方針とした。

○2018年度診療報酬・介護報酬同時改定の情報収集を行い、変更のある施設基準や新規届出が可能な施設基準の洗い出しを行った。また、様々な研修会の開催や派遣を通じ職員の育成に努めたほか、新事業として総合専門医研修施設の認定を獲得。看護師奨学生の採用も実施し、組織強化と人材確保に取り組んだ。